

株式会社 岩沼精工

諦めからの再興 お客様と従業員に後押しされて

絶望的な工場の被害

株式会社岩沼精工は、リチウムイオンバッテリー向けのプレス加工を軸に試作から量産まで対応、さらに自社内で金型の設計から行うことができる体制を整えることで高い信頼を得ている。テレビなどで被害状況が報道されていた仙台空港の程近くに工場を構え、今回の震災で津波による被害を大きく受けた企業のひとつである。

幸いなことに、通りを隔てた反対側に大きな冷凍倉庫が建っていたため津波の勢いは若干軽減されたものの、それでも工場の中にも1.5m程度の高さまで津波が押し寄せていた。

代表取締役の千葉喜代志氏と常務取締役の千葉厚治氏は、地震発生当時に出張しており、実際に工場に入ることができたのは地震から2日経った3月13日だった。

道路には津波で流されてきた車や瓦礫が山積みになっており、やっとの思いで工場にたどり着くも、その変わり果てた姿を見て愕然とした。工場の中も外もヘドロと瓦

礫に埋め尽くされ、整然と並んでいた設備類は塩水まみれになり、工場の壁には、肩ほどの高さで泥の黒い線がくっきりと残っていた。

「もうダメかもしれない」。2人は意気消沈して帰路に着いた。

お客様の部品を守る決意

週明けの月曜日、復興できるのだろうかと不安な気持ちを抱えながら、社長の喜代志氏は従業員に工場と金型の清掃の指示を出した。工場のヘドロをかき出す作業と金型の清掃に追われる日々が続いた。

「金型がなければ部品が作れず、お客様に迷惑をかけてしまう。自分たちの工場まで作れなくても、金型さえあればお客様は別の工場に部品製作を依頼することもできる。金型だけはなんとかしよう」。喜代志氏は、自社の工場と同じほど、客先の仕事を大事に考えた。

金型の清掃が終わると、客先の了承を得

て、福島や山形の工場に部品の生産を委託した。「困った時はお互い様だから」と、快く引き受けてくれたことがとてもありがたかった。

従業員に支えられて

客先の部品を無事に確保できたものの、自社工場の建て直しは思うように進まなかった。当初は、厚生労働省が設定している『中小企業緊急雇用安定助成金制度』の利用を考え、すでに申し込みの手続きも行っていった。この助成金は震災以前からあったものだが、今回の震災にあたり、申請条件が緩和された内容での使用が可能になっていた。この制度を利用すれば、会社を休業したとしても、従業員は補償を受けることができる。

しかしながら、本当に工場を再稼働できるのかどうか不安を抱える経営陣とは対照的に、従業員は工場を復興させることに士気を高めていた。常務の厚治氏は「工場を復興できたのは、従業員に寄せられたようなものですよ」と振り返る。従業員の前向き



な気持ちに後押しされ、岩沼精工は復興へ向け本腰を入れはじめた。

1度だけテレビの取材も受けた。多くの人に向けて復興の決意を示すことで、自分自身を追い込むことができると喜代志氏は考えたのだ。その狙い通り、自ら退路を経た喜代志氏は、岩沼精工再興に向けて邁進していくことができた。

決して平坦な道のりではなかったものの、結果的には早期に工場を復興し、自社で生産を行う体制を取り戻すことができた。震災のため生産を委託していた工場から金型を引き取り、4月11日には震災後初めて自社で生産した製品を客先に納品した。以降、随時設備を整え、6月からはほぼ自社工場部品生産を行っている。

復興企業の希望と なれるように

6月に入り政府から震災後初となる中小企業支援策『中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業復興事業計画認定』が発表された。数社グループで申し込むこの制度に応募するため、岩沼精工は、周辺企業9社のまとめ役に名乗りを上げた。結果、217グループの応募の中から、支援対象の17グループに選ばれた。

震災直後は工場の閉鎖まで考えた社長と専務だったが、従業員や協力工場、取引先に支えられ、ここまでやってこられたという。

7月には、プレス加工の設備を震災以前と同じ水準まで整え、金型の生産設備も9割程度復興できた。今後は自社開発した製品のリリースへ向けて準備を整えるとともに、同じように被災した企業のロールモデルとなるよう奔走している。



工場内の物を全部外に出し、清掃する日が続いた

工場前には津波により流されてきた車が 山積みとなっていた。

震災直後



3月13日、千葉社長は津波により山積みになった乗用車を踏み越え、工場に向かった。

現在



震災直後のようすは跡形もなく、道は綺麗に片付いている。

Company Profile

- 会社名：株式会社 岩沼精工
- 代表者：代表取締役 千葉喜代志
- 所在地：宮城県岩沼市下野郷字大松原305-3
- TEL：0223-29-2121 / FAX：0223-29-2122
- E-mail：info@iwanuma-sk.co.jp
- 設立：1974年4月
- 資本金：1,000万円
- 従業員：54名
- 業務内容：量産プレス加工事業・治工具全般の製作事業・試作品製作事業・生産設備類の設計・製作事業・金型の設計・製作事業



津波が引いた直後の工場内は足の踏み場もなかった。



工場の壁には、津波の高さにくっきりと泥の線が残っていた。



金型の接合部の穴にはびっしりと泥が詰まり、洗浄は困難を極めた。